

## H. P. Report

## 2002年の年頭にあって

2001年は、なんだか一年ずっとインターネットとかネットワークとかを特集していたような気がします。パソコンのニュースとしては、Pentium-4とかAthlon-XPなどのCPUやWindows XPの発売などはありませんでしたが、ニュースとしてはそれほど画期的なことでもなく、また新しくなったのかという程度のものであったのかもしれませんが。それに対してネットワークはブロードバンド全盛になりつつあり、これまででは考えられないような高速通信網が各家庭に入ってきています。そのため私の特集もブロードバンド、CATV、ADSLやインターネット、ユビキタスといった身近になりつつあるネットワークの話ばかりになったわけです。では年頭にあってですが、2年続けたパソコン消滅論はやめて別な面からこれからを考えてみたいと思います。

これからを考えるとキーとなるのが「ユビキタス」です。ユビキタスは以前特集したように「同時にいたるところに存在する」という意味で、高速ネットワークの普及によっていろいろな情報が意識しなくても、生活の中でネットワークからもたらされるようになるというものです。確かに便利なような気がします。店舗を持たないネット銀行、インターネット上での商店の集まったインターネットモール、インターネットと接続されたコンビニなどネットワーク上にほぼすべてのものが存在するようになっています。いろいろなものを購入して支払いすることがこれを利用することによってできることから生活が便利になるだろうということが想像されます。インターネット上ではこれまでの通信販売のように購入できるだけでなく、直接海外から購入したり、身近な生活用品、生鮮食品までネットで買うことがもうすでにできます。支払いもクレジットカードや直接銀行からの引き落としが可能で、現金がネット上の情報として飛び交っているようになっています。

しかし、このような便利な面ばかりがいわれられていますが、本当にそのようなものなのでしょうか。ちょっと話が違うみたいですが、以前国民総背番号制が論議されたことがあります。国民一人一人に番号を配布（付ける）して、いろいろなものをそれで管理しようとするものでした。今でも、学校に入れば学生番号があり、会社に入れば社員番号があります。また、国民健康保険にも番号があり、銀行の口座番号もある程度は個人についての番号ということが出来ます。これらはそれぞれの機関がつけた番号であり、その番号だけで個人を特定するものではありませんでした。しかし、国で一人一人に番号をつければ、完全に一人を特定できます（基本的に日本国内においては）。確かに現在個人を確実に特定することはできません。免許証についても申請のときに提出するのは住民票ですし、顔写真を撮影するのはその住民票を持ってきた人を撮影するのであって、別人がなりすましすることは可能です（現にこのような、なりすましの事件もありました）。それぞれの番号についても、その機関に申請したときに提出した書類が十分であれば、誰でもがなりすましをすることができます。国民一人一人に番号がつき、そのカードに顔写真を貼り、定期的に更新するのであれば、ほぼ確実に個人を特定することができます（生まれたときや役所の担当者に悪気があれば別ですが）。このような国民総背番号制が、大きな問題ともならないうちにあと2年後に全国で始まります。基本的に国民一人一人にカードが発行されることとなります。国や自治体はこのカードによって例えば全国どこでも住民票の発行ができる、住所移動が簡単になるなどのよい面を強調してスタートすることになります。住民のほ

うもコンピュータの時代に慣れてきたのか、大きな問題にしないうちに法案が通ってしまったためか、インターネットを見ても弁護士の団体などが意見広告はしていますが、マスコミが大きく取り上げないこともあり規制の事実としてスタートしようとしています。国民の個人を特定できることは、いろいろな意味で有効であるとは思いますが、はたしてそのような便利な部分だけを考えてスタートすることは問題はないのでしょうか。

ユビキタスの実現としていろいろなサービスが始まっています。東京の私鉄では定期の情報を読み取って、その個人に有効と会社側が勝手に判断した情報を個人の携帯電話に送るサービスを始めたところがあります。つまり、個人のアンケートによる情報や購入品の履歴から個人の趣味嗜好を判断して、例えば最寄り駅のデパートのセールの情報等をタイムリーに送るもので、個人にとってはネットワークに接続されている意識もなしに見落としそうな情報が送られてくるため便利な気がします。しかし、そのような情報を送ることができるということは、個人の動きを把握し、デパートなどの小売POSなどの購買情報やアンケートなどの大量な情報から個人の趣味嗜好までも管理できているということで、そこまで管理されてしまっているのかという気がします。国民総背番号がついた場合、やろうと思えば、いろいろなことができます。まず便利な面では、クレジットカード、キャッシュカードなどのカード機能を持たせたり、通勤定期の代わりにしたり、自治体での自動申請や健康管理などが行えるようになります。個人が特定できるわけですから、不正使用や不正申請などは行えなくなります。偽名を使っての口座を作ることや、他人のなりすましもできなくなります。カードと銀行が密接に接続されれば、お金を持ち歩く必要がなくなり、購買情報がすべて集めることが事実上可能になります。また、道路からの情報、各交通機関からの情報を一括管理できれば個人がいつでもどこへ移動したかについても管理することが可能となります。たしかに、今回の国民総背番号についてはここまで行わないことにはなっているのですが、すべての情報がネットワーク上を流れているのは現実です。完全な個別回線でのネットワークを構築しない限り、侵入は可能となります。特定の人々の情報を各情報源から集めることによって、理論上これらのことは可能となります。便利になるかわり、リスクは必ず存在します。

また、ユビキタスの実現によってこれまでも言われてきたように「情報弱者」の問題が取りざたされてくるとは思います。このようなネット社会になったときに対応できない人は必ずでてきます。そのような人を情報弱者というわけですが、このような方々が本当に困ってしまうような状態になるのか、ネットと接続できなければ生活できないのかと考えた場合、案外そうでもないのではと思ってしまいます。たしかに、会社はネット社会に対応できなければ今後問題となる場合も多いでしょうが、個人の問題となれば別です。情報化、IT化から取り残されていくことがその人にとって問題となるのでしょうか。逆にいえば、ネット社会となり、いろいろなものがネット上に情報として乗ってしまうことが、新しいことに、めまぐるしく変化することに対応していくことが本当に必要なのでしょうか。あまりにもその中に個人が埋没し、個性がなくなり、ちょっとしたことでトップに上り詰め、すぐあとには奈落のそこに転落することが、人間的なのでしょうか。作り上げられていく社会の一部になって、現実の世界とネット上の世界が融合してしまうような「ホモユビキタス」の出現がこれからのキーワードかも知れませんが、なんか違うような気がしてなりません。

CPUの出現のすぐあとから大学会社とかかわりを持ち続け、マイコンからパソコンの出現、これから来るであろう本当の情報家電の出現と、その流れの中に積極的にかわりをもち続けてきましたが、本当にこのままでという気がしてなりません。2002年の年頭にあって、自分が不安に思われてきたからかもしれませんが、長々と世迷いごとを書き綴ってしまいました。

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 12月17日号

特集 決戦前夜 HDD対不揮発性メモリ

→HDDとメモリ、根本的に違うものと考えられてきたが不揮発性メモリのHDDの置き換えが現実味を帯びてきている。これまで価格的に合わなかったが、3～5年以内に10GBが1万円となれば話は違う。家庭用ネットワークストレージとして主役はどちらになるか。

○日経エレクトロニクス 1月7日号

特集 バイオの予感

→電気磁気学に端を発したエレクトロニクス。いろいろな分野の技術性を積極的に取り入れて発達してきている。例えば科学の知識を取り込むことで集積化技術を発展させたように、生物学の知識(バイオ)がエレクトロニクス産業に加わる。生体材料、有機材料を使って新しい回路を生み出し、新しい市場が作られる。

解説 何のための地上はデジタルテレビ

→2003年には国内のテレビをすべてデジタルテレビに置き換えようとしていた。しかし、アナログ周波数のデジタル周波数への移行に2000億円必要であることがわかって、何のために地上波をデジタル化するのか見直しが始まっている。

○日経パソコン 1月7日号

特集 パソコントラブル緊急脱出法

→コンピュータウィルスやシステムトラブルが発生したらどう対処すればよいのか。発生したら被害はどうなるのか、被害にあった場合の対策と、被害にあわないための予防方法をまとめて。特にウィルスはメールを見ただけでも感染するので注意が必要。

特集 自分専用を買う A4 “以外” のノート選び

→メインに使うパソコン以外にノートを用意するならA4である必要はない。ちょっと小さめで、自分だけの世界を作り出すためのノート購入術。

○日経バイト 1月号

特集 インターネットの限界を超える

→インターネットは情報収集や電子メールなど便利なものだが、そのデータを利用するにはいろいろな操作が必要になる。その限界を超えるのがWebサービス。Webサービスは、インターネットで情報を利用するために必要な複数のサーバへのログインを認証管理することによって簡略化したり、データの受け渡しに共通のインターフェースを利用することによって、複数のサーバを利用する場合にも、インターネットに対して操作することによって利用することが可能となる。

特集 検証 IPv6の“通説”

→現在のIPプロトコル(IPv4)に対して脚光を浴びているIPv6。インターネットの爆発的な普及によって、このIPv6にはいろいろな“通説”が存在する。現在のIPv4のままでは2005年にアドレスが枯渇する(早ければではある)や、IPv4にIPv6は取って代

わるなど。実際はどうであるか、それぞれについて解説する。

○日経ネットビジネス 12月25日号

特集 ネットビジネスの2002年が分かる キーワード200

→2002年のキーワードとなるもの。数字は、ブロードバンドの用語は、モバイルは。で、8のジャンル別に200のキーワードを特集。

特集 アカウントアグリゲーションとは？

→1つのIDで複数サイトのサービスを利用することのできる、アカウントアグリゲーション。このサービスはアカウントアグリゲーションのWebサイトで登録すれば、新規に発行された総合アカウントだけで、複数のこれまでのWebサービスが利用できるようになる。

○N+I MAGAZINE 1月号

特集 アプライアンスがネットワークの質を変える

→現在のネットワークには、高度なセキュリティとトラフィックマネジメントが求められている。機能を追加するために、ハードウェアを含めてパッケージ化したものをアプライアンスというが、同じパソコンではあるが専用にチューニングされているアプライアンス機器は、ネットワーク、システムの質を変えていく。

特集 Windowsセキュリティ徹底マスタ

→インターネットからの脅威にさらされているWindows。マイクロソフトのセキュリティ対応と、セキュリティ対応の初歩からのノウハウ、チェックポイントの紹介。

特集 不正侵入対策の基礎

→ネットワークを防御するために。まずその手口を知り、その対策を特集する。

○ASCII 1月号

特集 Windows XPのウソ・ホント

→実際のWinXPは前評判どおりだったか。あの機能、その機能の実際はどうであったか。ホントのところを自由店特集。

特集 ブロードバンド最深情報！

→ブロードバンドで接続するための、ハッカー迎撃大作戦。各アプリケーションについてはFDでデータのやり取りを行う。

○DOS/V magazine 1月1日号

特集 システム修復の極意

→だんだん使っているうちに不安定となっていくWindows。なぜ不安定になっていくかから、修復のポイントまで。WinXPについての修復機能も、うまく使わないとさらにめんどくさいことになる。最小限の修復前の準備から、的確な対処法まで。

特集 常時接続のためのセキュリティ実験室

→常時接続にはセキュリティが重要になるが、実際どうすればいいのかよく分かっていない。自分自身の危険度からセキュリティホール実験などを通してセキュリティを考える。

○DOS/V magazine 1月15日号

特集 マザーボードバイブル2002

→新しく登場したチップセットIntel 845B。2002年初頭に理想のマザーボードを見つけるためのデータ紹介。

特集 Windowsカスタマイズの秘技50

→Windows 2000/XPで利用できるカスタマイズのいろいろ。簡単な設定から、レジストリ変更、超A級秘技ベスト8までの紹介。より使い易くして自分だけのWindowsをつくる。

特集 最強サラウンド環境構築術

→スピーカセットも2~5万でそろろう。5.1chシステム導入は身近になってきている。では実際パソコンを使ってサラウンドシステムをどう構築すればいいか。サウンドボードの紹介からスピーカセットの紹介まで。